

平成30年度学校評価実施状況報告書

香川県立観音寺総合高等学校

1 学校評価の流れ

年度当初に「教育方針」の理念、教育目標、重点項目を踏まえて、それらの実現に向けて各校務分掌・学年団・教科・学科がそれぞれ重点目標と具体的方策を設定した。評価にあたっては、自己評価としてそれぞれの重点目標がどの程度達成できているかを問う形で、2回の評価を行った。10月に上半期における取組みに対する中間評価を行い、2月下旬には下半期を加えた年間評価を実施した。保護者からの評価や教員間での相互評価を得るために、12月に保護者および教職員を対象にそれぞれアンケートを実施した。

それらの集計結果等を参考に、2月下旬には各校務分掌・学年団・教科・学科が今年度の成果と課題を総括し、来年度に向けての改善策をまとめた。また、2月上旬の学校評議員会（学校関係者評価）で、学校の取組に対する意見・感想をいただき、今年度の学校評価を終えた。

《学校評価年間計画》

	生徒	保護者	職員	学校評議員
4月				・委嘱
5月	・授業評価の項目検討	・公開授業アンケート ・PTA総会 (前年度評価結果)	・学校評価 年間計画策定 ・学校自己評価 重点目標等策定	
6月				・第1回学校評議員会 (学校評価年間計画)
7月	・授業評価 ・学校生活に関する 調査(第1回)	・学級懇談会 ・教科書選定 (PTA役員代表)	・授業評価分析	・教科書選定 (学校評議員代表)
8月	・授業評価報告			
9月		・総合祭		・総合祭
10月		・学校教育評価 項目検討	・学校自己評価 (上半期)	
11月		・公開授業アンケート		・公開授業アンケート
12月	・学校生活に関する 調査(第2回)	・学級懇談会 ・学校教育評価実施	・学校教育評価実施	・学校関係者評価 項目検討
1月	・インターンシップ アンケート (総合学科1年)			
2月	・インターンシップ アンケート (工業科2年)	・学校教育評価 結果報告 (PTA評議員会)	・学校自己評価(年間) ・成果と課題、改善策 の取りまとめ	・第2回学校評議員会 (学校関係者評価)
3月				

2 評価結果のまとめ

(1) 学校自己評価結果

各校務分掌・学年団・教科の今年度の取組に対する自己評価結果は、4段階評価のうち3＝「だいたいできている」に集中している。2年団が、中間評価では「2」だったが、年間評価では「3」になった。十分に成果をあげており「4」と評価してもよいと思われるものも、控えめに「3」と評価しており、全体的に「4」と評価することに消極的であるようにも思われる。

ただ、統合からまだ2年目ということで新たな取り組みや行事の大規模化によりこれまでよりも各分掌の負担は増加したものと推察されるが、概ね当初の目標を達成したと言える。

(2) 学校教育評価（保護者アンケート）の分析と考察

- ①校務分掌、学年団の取り組みについて、すべての質問項目に対して、A＝「そう思う」、B＝「だいたいそう思う」の肯定的な回答が8～9割を占めている。E＝「判断ができない（わからない）」の回答が多くなっている教育研究部、教育相談部、教育情報部は、具体的な取組の内容が伝わっていないことが要因と考えられる。昨年度のアンケートの集計でも同様の結果が出ており、保護者がアンケートに回答することができるだけの情報を、普段から保護者に提供する努力が必要である。公式Facebookページで修学旅行の様子をリアルタイムに発信したことに対しては、2年生の保護者から高い評価が得られている。今後とも学校だよりやHP及びFacebookによって学校の活動に関する情報を積極的に発信していくことが重要である。
- ②保護者からいただいたコメントでは、昨年同様、本校の教育活動への賞賛の意見がある一方で、地域住民としての立場から本校生徒の交通マナーの悪さなどに指導改善を望む声が寄せられており、具体的な対応が必要である。基本的な生活習慣の確立を図るとともに、規範意識の向上に努めなければならない。

(3) 学校教育評価（教職員アンケート）の分析と考察

- ①学校規模が拡大したことで職員室が分散し、昨年度までのように気軽に情報交換ができる環境がなくなったこともあり、質問項目によっては、E＝「判断ができない（わからない）」の回答が多くなっているものがある。何らかの改善策が必要である。
- ②全体として昨年に比して、厳しい結果となっている。昨年は統合初年であったので、評価に際して、「1年目なので、1年目にしては」という意識がはたらいたのに対して、今年度は、逆に「統合2年目なのに」という意識で、評価が厳しくなった面もあるのではないかと考えられる。ただ、それはそれとして昨年からの評価が下がったことを真摯に受け止め、各分掌・学年団等で目標の達成に向けて努力していかなければならない。そのため、年度末に、各分掌・学年団等に、次年度に向けての課題と改善策の検討・提出を求めた。

(4) 学校関係者評価

- ① 学校規模が拡大したことで職員室が分散し、昨年度までのように気軽に情報交換ができる環境がなくな「街で見かける生徒の表情が皆明るく、生徒がのびのびと学べる環境が作られている。子どもたちの個性を生かす、伸ばす教育こそが求められている。」との意見をいただいた。
- ② 「統合2年目、両校の伝統や行事を引き継ぎながらの活動は大変だと思うが、いいものは続けて欲しい。保護者や教職員アンケートでも分かるように、学校運営や教育活動は良好だと思うが、知らせる、伝える工夫ができたならさらに良いと思う」との意見があった。
- ③ 「食物系列の「総合祭」での長月弁当やローソンとコラボしたスイーツの開発・販売、商業系列の地域のイベントでの高校生カフェ、工業科の出前授業など、特色ある活動が積極的に行われていることを、もっと積極的に校外に発信、アピールすべきである」との意見をいただいた。

3 次年度の課題

- ① 基本的な生活習慣の確立を図るとともに、規範意識の向上のための方策を講じる必要がある。
- ② 本校の多様な教育活動を継続させるとともに、保護者や地域に積極的に知らせる必要がある。